

# 2024年度 杏林大学〈前期〉市民聴講生講座 募集要項

■ 提供科目

※ 曜日・時限・授業内容・授業形態が変更の可能性もあります。  
 ※ 祝日開講する講座もあります。 予めご了承下さい。

2024/2/9 改訂

No.	時期	講座名／講師名	講座内容	期間／曜日／時間
1	前期	英語学特論Ⅳ (応用言語学) 八木橋 宏勇 外国語学部 教授	本講義は、認知言語学・第二言語習得について、「担当者が主導するディスカッション形式の基礎演習」と「学生によるプレゼンテーションと発展演習」の二本立てで展開される予定である。「用法基盤モデル」の観点から日常の言語現象をより分析的に考えられるようにトレーニングを行い、ことばに関する様々な現象への興味関心および洞察力を深めていく。最終的には、発展的で意義のある疑問を抱き、考え抜いてその疑問を解決に導く、という主体的な思考経験を積み重ねることで「問題発見力」「問題解決力」を「学問を通して」身につける。	4/8 ~ 7/22 ※祝日開講日を含みます 毎週月曜日・5限 16:20~17:50
2	前期	英語学特論Ⅰ (統語論・文法論) 稲垣 大輔 外国語学部 教授	ことばは「心の鏡」と言われます。私たち人間は、ことばを使わずに、考えたり、コミュニケーションしたり、社会生活を送ることはできません。ことばは私たち人間を人間たらしめている種に固有の生物学的特徴です。では、そのことばの知識とはどのようなものなのでしょうか？そして、その知識を幼児はどのようにして獲得するのでしょうか？ 本講義では、「生成文法理論」と呼ばれる、「ことばの知識」を、自然科学と同様に、データの収集、一般化、仮説の検証・反証、理論化という科学的方法を用いて解明するアプローチについて理解することを目的とします。生成文法理論が1950年代に誕生して以来、半世紀の月日が経過しましたが、この理論が一貫して掲げている目標・問題意識を確認した上で、英語という個別言語の具体的な分析を通して、英語の文法を記述し、理論化する方法を学びます。	4/9 ~ 7/16 毎週火曜日・3限 13:00~14:30
3	前期	韓国の文学・文化 鄭 英淑 外国語学部 教授	東アジアの中でも昔から交流があり、歴史的にも深い関係を持つ韓国(人)について知っていく。前半では、説話を紹介して昔からの韓国民族の思想・感情・情緒を吟味し、後半では現代韓国の文化を紹介し、韓国文化全般について理解する。これは発展的な日韓関係、東アジア共同体構築に向けての広い視野を持つことにもつながると考える。 韓国文化、韓国社会、韓国人についての総合的な知識を得て、理解を深めること。また、授業の後半には課題発表を予定しているため、韓国の様々な文化について発信できることを目標とする。	4/12 ~ 7/23(火) ※最終日は火曜日となります 毎週金曜日・4限 14:40~16:10
4	前期	表象文化論Ⅰ (文学作品の映画化に見る 景観) 高木 眞佐子 外国語学部 教授	フィクションであること知りつつも、映画を観た時、そこに展開する見知らぬ風景に憧れの念を抱くことが、誰にでもあるのではないだろうか。それは恐らく、そうした風景が歴史や文化の重みを持ちつつ、なおかつ我々に理解可能なストーリーを運びながら迫ってくるからである。それでは都市景観や文化遺産あるいは田園風景は、どういふ瞬間に「魅力的」に映るのだろうか。本講義では欧米を舞台とする映画をいくつか取り上げ、そこに描かれる土地や空間が我々に生じさせる「感覚」について考察する。受講者諸君には、日本とは異なる文化が根ざしている美意識や価値観の違いに親しむとともに、正しい歴史・地理感覚や場所のイメージ(トポグラフィ)を掴んで欲しい。また、比較対照をするために、講義内では日本の映画についても言及することがある。基本的に講師が材料を提示していくが、学生諸君の希望に応じて他の作品も取り入れていきたい。	4/10 ~ 7/17 毎週水曜日・2限 10:40~12:10
5	前期	中国の思想 森 和 外国語学部 准教授	中国では春秋戦国時代(前770年~前221年)に「諸子百家」と呼ばれる多くの思想家が活躍しました。中でも孔子を祖とする儒教は中国のみならず、東アジア全域に大きな影響を与えました。この講座では、儒教を始めとする「諸子百家」の思想をいくつか取り上げ、原典史料(漢文)を読み解きながら、基礎的な知識や特徴を理解し、歴史的な背景と影響などを考えます。そして、これらの古代思想の現代社会における意味合いについて考えることで、異文化理解を深めてゆきます。	4/11 ~ 7/18 毎週木曜日・4限 14:40~16:10
6	前期	行動経済学 糟谷 崇 総合政策学部 准教授	行動経済学は、従来の経済学では説明できなかった社会現象や経済行動について、人の直感や感情などの心の動きを重視し、人間行動について説明しようとする学問です。本講義は、行動経済学の基礎を学び、人間行動や意思決定の問題を理解できるように学んでいきます。 この授業の目的は以下のとおりである。 ① 意思決定がどのような行動仮定に基づいて行われているかを考察する。 ② データ分析の手法の違いによる意思決定への影響を考察する。 ③ こうした考察を通じて、経済学、心理学、社会学、統計学における人間行動の違いを理解する。 この授業を通じて、経済合理性と人の直観や感情などを理解し、実際の経済現象における問題解決に対する応用的な視点が身につくことが期待される。	4/11 ~ 7/18 毎週木曜日・2限 10:40~12:10
7	前期	財政論 知原 信良 総合政策学部 非常勤講師	財政について、入門レベルから始めて全体像をひととおり理解するための講義である。政府の役割、予算、租税、社会保障等の仕組みや諸課題について政治経済学的観点から学んでいく。 経済コースにおける応用科目であるが、現代社会で財政が果たす重要な役割に鑑み、基礎的な知識を固めたうえで、現在および将来の財政のあるべき姿を考え、自分の言葉でそれを発信することが出来るようになることを目指す。	4/11 ~ 7/18 毎週木曜日・3限 13:00~14:30
8	前期	租税法Ⅰ 知原 信良 総合政策学部 非常勤講師	租税法の講義である。租税法全体にかかわる基本事項を学ぶ。所得税法を題材にして具体的に考える。 租税は政府の財政活動の財源であり、日常の社会生活に密接に関係している。租税は、民主主義社会を支える仕組みとして、租税法主義の下で執行されている。政府への信頼が不可欠となるので、納税者の立場から、日々の税負担をめぐる課題や税制改革について学んでいくことで、適切な対応が身につくことを目指す。	4/8 ~ 7/22 ※祝日開講日を含みます 毎週月曜日・3限 13:00~14:30

# 2024年度 杏林大学〈前期〉市民聴講生講座 募集要項

■ 提供科目

※ 曜日・時限・授業内容・授業形態が変更の可能性もあります。  
 ※ 祝日開講する講座もあります。 予めご了承下さい。

2024/2/9 改訂

No.	時期	講座名／講師名	講 座 内 容	期間／曜日／時間
9	前期	外交政策論A 島村 直幸 総合政策学部 准教授	講義では、国際関係と外交について、主要なテーマを一つずつ取り上げ、歴史と現実に対する理解を深める。 外交とは、近代以降の主権国家の間で展開されてきた対外政策の術であり、世界政府が存在しない「無政府状態(アナーキー)」の国際社会では、第一義的には「国家の生存」のために「秩序の安定」を目的としてきた。しかし、現代の外交では、経済や開発、人権、環境といった問題領域や争点の重要性が、たしかに相対的により高まってきた。なぜなら、二度の世界大戦を経験し、核兵器が出現した現代の国際社会では、少なくとも大国間での戦争が勃発する蓋然性が著しく低下し、過去と比較すれば、安全保障や軍事力の重要性が相対的により低下してきたからである。 また同時に、国際的に相互依存が深化したことにより、戦争はますます起こりにくくなりつつある。国際社会で民主化や制度化がさらに進展していけば、戦争がやはり起こりにくくなる(はずである)という指摘もある。さらに、国際連合(国連)などの国際機関、多国籍企業、NGOや市民社会など、主権国家以外の行為主体(アクター)の重要性も、現代の外交ではたしかに無視できない。 しかし、国際システムが基本的に主権国家からまず構成され、システム原理が「無政府状態」であるという現実が根本から変化しただけではない。たとえば、国連はあくまでも主権国家の集まりであり、主権国家よりもより上位の権威、すなわち世界政府ではない。また、ヨーロッパ統合は、たしかに主権国家を乗り越える歴史的な実験を積み重ねてきたが、深刻な財政危機に直面し、今まさに歴史的な岐路に立たされている。	4/11 ~ 7/18 毎週木曜日・1限 9:00~10:30
10	前期	アメリカ政治論 島村 直幸 総合政策学部 准教授	21世紀はじめの国際秩序は、中国の台頭やロシア・ウクライナ戦争の勃発を受け、アメリカ中心の単極構造が相対化されていくと予測されている。近代以降の主権国家システムの変容を予測する議論まである。アメリカ政治外交の現状をいかに分析し、将来をいかに展望できるのか―。 講義では、まずアメリカ外交の伝統を取り上げ、次いで第二次世界大戦後の冷戦期のアメリカ外交史を考察する。イギリスの歴史家E.H.カーが指摘したように、複雑な現在の問題をより深く理解するためには、過去の歴史を学び、過去と現在とを”対話”させる必要がある。アメリカ外交の歴史を学ぶ場合も、例外ではない。 また大統領とアメリカ議会、二大政党制など、アメリカ政治の仕組みについて議論したい。アメリカ政治は、アメリカ合衆国憲法によって、「権力の分立」と「抑制と均衡」の原則が厳格に適応されている。民主主義国家のアメリカ外交は、内政の動きと切り離して議論することができない。なぜなら、大統領とアメリカ議会の間では、内政だけでなく、外交でも「抑制と均衡」が機能することが期待されているからである。	4/11 ~ 7/18 毎週木曜日・3限 13:00~14:30
11	前期	時事問題研究B<春> 島村 直幸 総合政策学部 准教授	国際政治経済の時事問題について、レジュメや新聞記事などを題材にして理解を深めていく。 2016年は、アメリカ大統領選挙や日本の参議院選挙など、国際的に選挙の年であった。2017年は、ドナルド・トランプがアメリカの新しい大統領となった。2018年にはトランプ外交が本格的に始動した。2018年から2020年にかけては、米中貿易戦争が勃発している。米中間で「新しい冷戦」まで指摘された。2020年は、アメリカ大統領選挙があり、2021年にジョセフ・バイデンが新しい大統領となった。 また、BRICSなど新興国の台頭を受け、地政学が復活した、という議論もある。「イスラーム国(IS)」の脅威の衰退後も、シリアの内戦やイラン問題など、中東情勢は混迷を深めている。アメリカ外交は、オバマ政権の下で、迷走を深めた。トランプ外交は、混迷を極めた。「インド太平洋戦略」と「中間層のための外交」を推進するバイデン政権の政策対応が注目される。 21世紀の国際秩序は、いかなる方向へ向かうのであろうか―。	4/8 ~ 7/22 ※祝日開講日を含みます 月曜日 4限 14:40~16:10
12	前期	中東・アフリカの政治・経済 知原 信良 総合政策学部 非常勤講師	中東・アフリカの政治・経済について学ぶ。 この地域は、地理的にも遠く宗教が絡むことから、敬遠しがちであるが、関心が高く需要視されている。 多様な資源やエネルギーの供給源として重要であり、歴史や文化に深いつながりがあることはあまり知られていない。歴史、宗教、文化にも関連付けながら、中東・アフリカ地域の経済的、国際関係上の課題について論じる。	4/11 ~ 7/18 毎週木曜日・2限 10:40~12:10
13	前期	福祉心理学 石川 智 保健学部 講師	福祉領域は、保健・医療、教育に続き心理職が働く領域となっている。本講義では福祉現場における心理社会的課題および心理的支援について学んでいく。各現場の支援対象である人々の持つニーズと社会的背景について基本的なところから考える。また、福祉領域では対象者への支援が生活全般に及ぶ場合もあることは特徴的であり、その支援の基盤となる我が国の社会福祉制度の概要についても学習する。	曜日・時限 未定 ※ 2024年度 前期は 三鷹キャンパスで 開講予定 別途ご案内いたします

※福祉心理学について曜日・時限の確定は3月以降の予定となります。お問合せください

